

■ 追 悼 ■



萬年 甫先生を偲ぶ

東京医科歯科大学名誉教授

和氣健二郎

わが国を代表する神経解剖学者、東京医科歯科大学名誉教授 萬年 甫先生には2011年12月27日、東京目黒のご自宅で急逝されました。机上にはご執筆中の原稿が開かれたままでした。

先生は1923年5月23日、千葉県千葉郡津田沼町771番地でお生まれになり、幼時を市川の真間で過ごされた後、医師のご尊父が開業される機に、現在のご自宅近くへ転居されました。芝の白金小学校から府立高等学校尋常科、続いて理科乙類を経て、1947年東京帝国大学医学部医学科を卒業されました。卒業後は脳研究施設の小川鼎三教授を慕って大学院へ進学されました。1954年

に東京大学医学部助手、1957年講師、1958年助教授、さらに1960年には東京医科歯科大学医学部附属難聴研究施設助教授を併任され、1966年に同医学部解剖学第3講座教授に昇任されました。1989年3月31日に定年退官されるまで23年間にわたり、神経解剖学の教育と研究に専念されました。その間、大学評議員ならびに附属図書館長の要職を歴任されました。ご定年後は週1日を東邦大学解剖学教室へ出向かれ、文献収集や講義で過ごされる以外は、もっぱらご自宅の書斎にひきこもって執筆に没頭されました。

若き日の萬年先生にとって、最もすばらしく有益な体験はフランス政府給費留学生として、パリのサルペトリエール病院シャルコー研究室のベルトラン教授のもとに滞在され、そこに集まってきた若く志を同じくする仲間たちと一緒にフランスの精神文化の洗礼を受けられたことでしょう。その研究室で神経膠腫の血管新生を研究されるとともに、神経病学の診療も学ばれました。また休暇を利用して欧州諸国の主要な脳研究所を巡り、著名な脳の研究者に接して多くを吸収されました。ことにマド

リッドのカハール研究所で、カハール自身の手になる完璧なゴルジ標本をみられた衝撃は先生の生涯を決定づけるものでした。パリ留学中の先生のご見聞は近く出版される予定の『滞欧日記』に詳細に書き記されています。

萬年 甫先生の緻密にして歴大な研究業績は、「誰もまだみたことがない神経細胞の全体像をみたい」という素朴な願望から発したものでした。先生はまず神経の細胞体の体積を測定するために、自ら改造した顕微鏡による落射光でゴルジ染色の神経細胞のステレオペア写真を撮影し、その写真を国土地理院へ持ち込んで細胞体に等高線を描いて体積を計算されました。パソコンなどはない時代のことです。

次の挑戦は神経細胞の長い突起を先端まで追跡することでした。神経細胞の当時の概念は細胞体から1本の神経突起(軸索)と数本の樹状突起が出ているという単純なものでした。それは想像の域を出ないもので、樹状突起はよしとしても、誰も長い軸索の全長を顕微鏡で追うような馬鹿なことはできるはずはないと信じていました。先生はその不可能を可能にされたのです。その方法とは先生が編み出された「切片越え軸索追跡法」です。

ゴルジ法で染めた脊髄の試料から厚さ100 μm の連続切片を作製し、脊髄の断面全域を高い倍率で撮影した顕微鏡写真を貼り合わせて大きなモニタージュ写真を作成します。その大きさは畳半畳にもなります。それをベニア板に貼り付け1個の神経細胞から出る軸索をトレースします。次いで標本を裏返して同様に写真を撮り、その軸索を次々につないでいきます。この工程を総数約5,400枚の連続撮影写真を200枚のモニタージュ写真にして行くと、10 mm厚の脊髄中に収まっている小型ニューロンなら全体像が描かれます。その軸索は枝分かかれし、ある枝は脊髄の他側へ向かって終わり、上行したり、下行するものなどさまざまな分布を示していました。

この研究から、脳では1個の神経細胞は多数の神経細胞からインプットを受け、その刺激を多数の神経細胞へアウトプットする歴大な神経網が張り巡らされている、という新しい認識論的な解釈が生まれました。

一方、樹状突起の分布パターンから、先生は「閉鎖核」と「解放核」という新しい概念で脳の神経核を分類されました。この発想は、夫人の献身的な協力を得て177枚の図版と140頁の解説書からなる壮大な脳の英文アトラスへ発展し、発想から30年後の1988年に完成し、岩波書店から出版されました。このアトラスに対して竹馬の親友から多額の資金援助の申し入れがあり、その資金で各国の主だった脳研究所に寄贈されました。

先生の輝かしい研究業績に対して、フランス政府から

パルム・アカデミック・シュヴァリエ勲章(1978年)、さらに藤原賞(1983年)、紫綬褒章(1987年)、勲三等旭日中綬章(1993年)が授与されました。

学部学生に対する先生の講義では、脳の複雑な構造も発生学を軸にして簡潔化されていましたし、黒板に色チョークで描かれた美しい図がいつそう学生の理解を助けました。先生は講義にマイクを使うことを好まれず、新学期の初めから進学してきた学生たちの名前を覚えられ、各人の顔をみて名前を呼ばれるものですから、学生には怖い先生と恐れられていました。

萬年先生の第3解剖学教室には若き俊秀が集まっていました。その人たちはこぞって人脳の連続切片のスケッチを描き、早朝には曜日ごとに決められた仏、独、英、スペイン語の輪読会に参加し、春は花見、夏は海へ、冬はスキーへと繰り出します。その中から優れた多くの神経生物学者や神経内科、精神科、脳外科の研究指導医師が育ち、いまでも大いに活躍しています。

当時の東京医科歯科大学医学部の解剖学教室は、第3講座が萬年教授の神経解剖学、第2講座が佐藤達夫教授の肉眼解剖学、第1講座が筆者が担当していた顕微鏡解剖学でした。講座間の関係は一般には不仲に陥りやすい傾向がみられますが、この3講座間にはそのようなことは微塵も感じられませんでした。講座間に垣根はなく、若い研究員たちは隣の講座に自由に出入りし、それぞれ担当の講義や実習に参加して解剖学の広い知識を身につけ、技術は互いに利用し合っていました。これは最年長者で、事実上のchairmanとして全教室員の尊敬を集めていた萬年 甫教授の見識、学識、人柄と運営能力によるものであったと思います。

大学人の任務は研究・教育と、税金で恩恵を受けている国民へのお返し、つまり啓蒙といわれます。萬年 甫先生はこの3つの任務を実にバランスよく、しかも最高のレベルで全うされました。先生の啓蒙活動は多数の専門書のほかに脳について平易に解説した数冊の一般書を通じてであります。現在は脳の時代といわれ、脳の解説書が巷にあふれていますが、研究室で永々黙々として大海のような脳に挑んできた研究者の血と汗の結晶ほど読者に深い感動を呼び覚ますものはありません。

かくいう神経研究者でもない筆者が、萬年 甫先生の追悼文を神経研究の本誌に掲載させていただくことに最初は戸惑いを覚えましたが、長年同じ解剖学教室にあって日々先生に接し、多くを学ばせていただいた者の1人として、深甚なる感謝の印としてお許しいただきたく存じます。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

■学歴

1936 年 3 月 芝区白金小学校卒業
 1936 年 4 月 府立高等学校尋常科入学
 1940 年 3 月 同 4 年終了
 1940 年 4 月 同 理科乙類入学
 1942 年 9 月 同 卒業
 1942 年 10 月 東京帝国大学医学部医学科入学
 1947 年 9 月 同 卒業
 1948 年 12 月 第 5 回医師国家試験合格
 1949 年 4 月 東京帝国大学医学部大学院前期入学
 1951 年 3 月 同 卒業
 1951 年 4 月 同 後期入学
 1954 年 3 月 同 卒業
 1955 年 10 月 1 日 フランス政府給費生としてパリ市サルベトリ
 エール病院に留学（～1957 年 1 月 31 日）

■職歴

1954 年 4 月 1 日 東京大学助手医学部に採用
 1956 年 8 月 9 日 医学博士学位授与（東京大学）
 1957 年 2 月 1 日 東京大学講師医学部に昇任
 1959 年 7 月 16 日 同 大学助教授医学部に昇任
 1960 年 7 月 16 日 東京医科歯科大学助教授医学部附属難聴研究
 施設に併任（～1960 年 10 月 31 日）
 1960 年 11 月 1 日 同 大学助教授医学部附属難聴研究施設に配
 置換
 1963 年 4 月 1 日 同 大学教授医学部附属研究施設に昇任
 1963 年 4 月 1 日 同 大学大学院医学研究科担当（～1988 年度）
 1966 年 4 月 1 日 同 大学教授歯学部兼任（～1972 年 3 月 31
 日）
 1966 年 7 月 16 日 同 大学教授医学部に配置換
 1967 年 7 月 1 日 同 大学評議員に併任（～1969 年 3 月 31 日、
 1979 年 8 月 1 日～1982 年 7 月 31 日）
 1967 年 7 月 1 日 同 大学協議会協議員（～1969 年 3 月 31 日）
 1968 年 12 月 13 日 講師（名古屋大学農学部）に併任
 （～1969 年 3 月 31 日、1975 年 5 月 1 日～
 1975 年 10 月 15 日）
 1968 年 12 月 16 日 講師（名古屋大学医学部）に併任
 （～1969 年 3 月 31 日、1975 年 1 月 1 日～
 1975 年 3 月 31 日）
 1979 年 8 月 1 日 東京医科歯科大学附属図書館長に併任
 （～1982 年 7 月 31 日）
 1979 年 4 月 5, 6 日 日本解剖学会総会第 84 回会頭
 1982 年度 フランス政府給費留学生試験委員に併任
 1986 年 4 月 8 日 東京医科歯科大学附属図書館長事務代理
 （～1986 年 4 月 18 日、1986 年 9 月 7 日～
 1986 年 9 月 22 日、1988 年 7 月 23 日～1988
 年 7 月 31 日）
 1989 年 3 月 31 日 東京医科歯科大学定年退官
 1989 年 4 月 1 日 同 大学名誉教授
 1989 年 4 月 1 日 昭和大学歯学部客員教授
 1991 年 4 月 1 日 東邦大学医学部客員教授（～1993 年 3 月 31
 日）
 1993 年 4 月 1 日 同 大学非常勤講師

■資格など

1949 年 5 月 9 日 医師免許（医籍登録第 124089 号）
 1956 年 8 月 9 日 医学博士の学位授与（東京大学第 6529 号）
 1971 年 4 月 『神経研究の進歩』編集委員
 1974 年 10 月 12 日 東京医科歯科大学永年勤続表彰
 1981 年 7 月 Editorial Board, J Comp Neurol Vol.198-
 266

■賞罰

1978 年 7 月 5 日 パルム・アカデミック・シュヴァリエ勲章
 （フランス）

1983 年 6 月 藤原賞
 1987 年 4 月 紫綬褒章
 1993 年 11 月 勲三等旭日中綬章

■業績（単著・単訳は著訳者名を省略）

■原著

Bertrand I, Mannen H: Étude des réaction vascularires dans les
 astrocytomes. Rev Neurol (Paris) **102**: 3-19, 1960
 “Noyau fermé” et “Noyau ouvert”. Contribution à l' étude
 cytoarchitectonique du tronc cérébral envisagée du point de
 vue de mode d' arborisation dendritique. Arch Ital Biol **98**:
 333-350, 1960
 Katsuki Y, Kanno Y, Suga N, Mannen H: Primary auditory
 neurons of monkey. Jap J Physiol **11**: 678-683, 1961
 Photogrametric representation of Golgi-stained nerve cell. Proc
 Jap Acad **40**: 582-587, 1964
 Arborizations dendritiques etude topographique et quantitative
 dans le noyau vestibulaire du chat. Arch Ital Biol **103**: 197-
 219, 1965
 Contribution to the quantitative study of the nervous tissue. A
 new method for measurement of the volume and surface area
 of neurons. J Comp Neurol **126**: 75-89, 1966
 Contribution to the morphological study of dendritic arboriza-
 tion in the brain stem. Prog Brain Res **21A**: 131-162, 1966
 Mannen H, Ueno T: A specially designed microscope for stereo-
 photomicrograms. Proc Jap Acad **43**: 395-400, 1967
 Neuronal stereophotogrammetry. A new approach to the prob-
 lem of nerve cell shape and dendritic domain. Med Biol Illust
18: 96-102, 1968
 A new approach for following the total course of the axon of an
 individual neuron in Golgi-stained successive serial sections.
 Proc Jpn Acad **45**: 633-638, 1969
 Reconstruction of axonal trajectory of individual neuron in the
 spinal cord using Golgi-stained serial sections. J Comp Neurol
159: 357-373, 1975
 Morphological analysis of an individual neuron with Golgi's
 method. In golgi centennial symposium. Santini M (eds).
 Raven Press, 1975, pp61-70
 Mannen H, Iizuka T, Kamataki K: A specially designed micro-
 scope for stereophotomicrograms with an annexed ster-
 eocomparator. Proc 10th Int Congr Anat 19, 1975
 Quantitative analysis of individual neurons using Golgi-stained
 materials. Proc. 7th Int Congr Neuropathol 219-226, 1975
 Mannen H, Sugiura Y: Reconstruction of neurons of dorsal
 horn proper using Golgi-stained serial sections. J Comp
 Neurol **168**: 303-312, 1976
 Three dimensional reconstruction of individual neurons in
 higher mammals. Int Rev Cytol **Suppl 7**: 329-372, 1978
 Hamano K, Mannen H, Ishizuka N: Reconstruction of trajec-
 tory of primary afferent collaterals in the dorsal horn of the
 cat spinal cord, using Golgi-stained serial sections. J Comp
 Neurol **181**: 1-15, 1978
 Hongo T, Ishizuka N, Mannen H, Sasaki S: Axonal trajectory
 of single group Ia and Ib fibers in the cat spinal cord.
 Neurosci Lett **8**: 321-328, 1978
 Hongo T, Ishizuka N, Mannen H, Sasaki S: The mode of
 tapering and distribution of nodes of Ranvier in group I a
 fiber collaterals in the cat spinal cord. In Integrative Control
 Functions of the Brain I. Ito M (eds). Elsevier Science, 1978
 Ishizuka N, Mannen H, Hongo T, Sasaki S: Trajectory of group
 Ia afferent fibers stained with horseradish peroxidase in the
 lumbosacral spinal cord of the cat: three dimensional recon-

- structions form serial sections. *J Comp Neurol* **186**: 189-211, 1979
- Ishizuka N, Mannen H, Sasaki S, Shimazu H: Axonal branches and terminations in the cat abducens nucleus of secondary vestibular neurons in the horizontal canal system. *Neurosci Lett* **16**: 143-148, 1980
- Hongo T, Kudo N, Yamashita M, Ishizuka N, Mannen H: Transneuronal passage of intraaxonally injected horseradish peroxidase (HRP) from group Ib and II fibers into the secondary neurons in the dorsal horn of the cat spinal cord. *Biomed Res* **2**: 722-727, 1981
- Sasaki H, Mannen H: Morphological analysis of astrocytes in the bullfrog (*Rana Catesbeiana*) spinal cord with special reference to the site of attachment of their processes. *J Comp Neurol* **198**: 13-35, 1981
- Ishizuka N, Sasaki S, Mannen H: Central course and terminal arborizations of single primary vestibular afferent fibers from the horizontal canal in the cat. *Neurosci Lett* **33**: 135-139, 1982
- Mannen H, Sasaki S, Ishizuka N: Trajectory of primary vestibular fibers originating from the lateral, anterior and posterior semicircular canals in the cat. *Proc Jpn Acad ser B* **58**: 237-242, 1982
- Otake K, Sasaki H, Mannen H, Ezure K: Morphology of expiratory neurons of the Bötzinger complex: an HRP study in the cat. *J Comp Neurol* **256**: 565-579, 1987
- Hongo T, Kudo N, Sasaki S, Yamashita Y, Yoshida K, Ishizuka N, Mannen H: Trajectory of group Ia and Ib fibers from the hind-limb muscles at the L3 and L4 segments of the spinal cord of the cat. *J Comp Neurol* **262**: 159-194, 1987
- Sato F, Sasaki H, Mannen H: Electron microscopic comparison of the terminals of two electrophysiologically distinct types of primary vestibular afferent fibers in the cat. *Neurosci Lett* **89**: 7-12, 1988
- Sasaki H, Sato F, Mannen H: Morphological analysis of single astrocytes of the adult cat central nervous system visualized by HRP microinjection. *Brain Res* **501**: 339-354, 1989
- Sato F, Sasaki H, Ishizuka N, Sasaki S, Mannen H: Morphology of single primary vestibular afferents originating from the horizontal semicircular canal in the cat. *J Comp Neurol* **290**: 423-439, 1989
- 細胞内脂質含有色素顆粒の分布より見たる被蓋網様核と橋核との関係に就いて. *東京医学会雑誌* **59**: 151-158, 1951
- 猫の小脳萎縮症の一剖検例. *No To Shinkei* **5**: 371-377, 1953
- 脂質含有顆粒の分布より見たる人脳の細胞構築について. *解剖誌* **30**: 151-174, 1955
- 萬年 甫, 関 泰志: 頸髄上端部における二三の比較解剖学的知見. *精神神経誌* **60**: 441-448, 1958
- 小脳半側摘除後脳幹及び脊髄に見られる細胞変化について. *神経進歩* **2**: 712-740, 1958
- 総説
- S. Ramon y Cajal のあとを. *臨床神経* **1**: 3-18, 1961
- ニューロン説の昨今. *医学の歩み* **44**: 185-194, 1963
- 神経細胞の形態を追って—顕微鏡による写真測量. *科学* **34**: 578-583, 1964
- 神経細胞の測量. *神経進歩* **10**: 62-66, 1966
- 脳幹網様体の細胞構築について. *No To Shinkei* **19**: 447-454, 1967
- 萬年 甫, 三木成夫: 脊髄血管の解剖—その史的展望—. *臨床神経* **7**: 380-395, 1967
- 前庭神経核の細胞構築. *神経進歩* **14**: 90-95, 1970
- 脳血液関門 まえおきと光顕のレベルから. *日医会誌* **67**: 1165-1171, 1972
- グリア細胞—形態学より—. *神経進歩* **16**: 9-15, 1972
- 脳血液関門—その形態学的側面—. *科学* **42**: 656-664, 1972
- 萬年 甫, 金光 晟: 神経系の発生 II—神経結合の選択制. *科学* **43**: 750-756, 1973
- 萬年 甫, 金光 晟: 神経系の発生 III—神経結合の可変性—. *科学* **44**: 46-53, 1974
- 脳の立体構築. *Neurologia medico-chirurgica* **18**: 77-84, 1978
- 脳のなかをのぞく—神経細胞の形を追って—. *学会会報* **765**: 54-59, 1984
- 神経細胞の形態と機能を追って—その3次元再構築—. *学術月報* **41**: 360-368, 1988
- ニューロンの形を追って. *遺伝* **43**: 56-69, 1989
- 脳の風景 I-IV. *Brain Medical* **4**: 5-11, 141-146, 261-266, 373-378, 1992
- ニューロンとは. *Clin Neurosci* **11**: 246-250, 1993
- ニューロンの三次元的全体像を求めて. *脳* **21** **4**: 98-103, 2001
- 著書
- Kurokawa H, Mannen H: General Aspect of the Histology of Neuroglia. In *Morphology of Neuroglia*. Nakai J (eds). Igaku-shoin, 1963, pp1-52
- 萬年 甫, 中濱 博: 中枢神経系制御 I—神経系の構造・皮膚感覚における情報処理. 共立出版, 1968
- 訳編: 神経学の源流 1 パバンスキーとともに. 東京大学出版会, 1968
- 訳編: 神経学の源流 2 カハールとともに. 東京大学出版会, 1969
- 神経系の構成. 医学研究振興財団編: 神経系の発生と分化—神経生物学セミナーより. 共立出版, 1976, pp1-24
- 神経系の構成. 時実利彦編: 脳と神経系. 岩波書店, 1976, pp16-111
- 萬年 甫, 原 一之: 構造の立場から. 新内科学体系第8巻. 中山書店, A 3-54, 1977
- 萬年 甫, 佐々木 宏: 中枢神経系の形態学総論. 現代精神医学大系第19巻A. 中山書店, 1978, pp147-192
- 萬年 甫 (清水, 裾分, 斎藤, 山田, 古川共訳): レオナルド・ダ・ヴィンチ 解剖手稿. 岩波書店, 1982
- 萬年 甫, 清水純一: レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図. 岩波書店, 1982
- 萬年 甫, 山田致知: 実習解剖学. 南江堂, 1985
- Mannen H: A dendro-cyto-myeloarchitectonic atlas of the cat's brain. Iwanamishoten, 1988
- 脳の探究者ラモニ・カハール—スペインの輝ける星. 中央公論社, 1991
- パバンスキー (神経学の源流 I 増補版). 東京大学出版会, 1992
- ラモニ・カハール (神経学の源流 II 増補版). 東京大学出版会, 1992
- 萬年 甫, 岩田 誠: ブロカ (神経学の源流 III). 東京大学出版会, 1992
- 萬年 甫, 原 一之: 脳解剖学. 南江堂, 1994
- 動物の脳採集記. 中央公論社, 1997
- 脳を固める・切る・染める—先人の知恵—. *メディカルレビュー* 社, 2010
- 翻訳
- 安芸基雄, 萬年 甫訳: バビンスキー “腱及び骨反射” に関する連続講義 (1912). *内科* **6**: 181-190, **6**: 385-392, **6**: 565-572, **6**: 977-980, 1960
- 安芸基雄, 萬年 甫訳: J.Dejerine—A.Thomas—オリブ・橋・小脳萎縮症. *内科* **7**: n376-n391, **7**: 581-591, 1961
- 安芸基雄, 萬年 甫訳: バビンスキー 足指現象について. *内科* **7**: 1179-1188, 1961
- 訳: 大脳皮質運動性言語中枢の発見—P. Brocaの原著より—(1). *内科* **9**: 572-584, 1962
- 訳: ニューロン説の生い立ち—再び S. R. y Cajal の原著より (1889年10月2日の発表) 「神経細胞の一般的結合について」. *神経進歩* **7**: 681-686, 1963
- ジャック・ニコル著, 萬年 甫, 萬年 徹訳: 科学者パスツール. み

すず書房, 東京, 1964

吉岡愛智郎, 萬年 甫: いわゆる「Horner」症候群について. 神経進歩 **9**: 828-835, 1965

訳: ニューロン説理論と事実. カミログルヂ. 1906 年 12 月 11 日
ストックホルムにおけるノーベル賞受賞記念演説. 神経進歩 **10**:
160-175, 1966

訳: ニューロンの構造と結合. サンチャゴ・ラモニ・カハール. 1906
年 12 月 12 日, スtockホルムにおけるノーベル賞受賞記念演
説. 神経進歩 **10**: 384-399, 1966

豊倉康夫解説, 萬年 甫, 萬年 徹共訳: (1)嗜眠性脳炎 (2)嗜眠性脳
炎についての新知見—コンスタンチン・フォン・エコノモ. 神経
進歩 **11**: 425-438, 1967

黒川正則解説, 萬年 甫, 今野公和共訳: Asbjørn-Folling-
Imbecillitas phenylpyrouvica について, 精神薄弱に関連する代
謝異常としてのフェニル焦性葡萄糖の尿中排泄について. 神経
進歩 **12**: 290-294, 1968

萬年 甫, 原 一之訳: 痙攣についての研究. A study of
convulsion-1870-, John Hughlings Jackson. 神経進歩 **12**: 770-
792, 1968

萬年 甫, 岩田 誠解説および訳: Brown-Séquard. 脊髄における
知覚の伝導に就いて. 神経進歩 **13**: 220-225, 1969

訳: 大脳の電気興奮性について—1870 年—. Gustav T. Fritsch u.
Eduard Hitzig. 神経進歩 **9**: 422-433, 1970

■古典の紹介

J・リュウトル『解剖学エッセイ』. 科学医学資料研究 **255**: 1-9,
1993

アルフォンソ・コルティの聴覚器に関する研究 (一) (二). 科学医
学資料研究 **281**: 1-15, **283**: 1-14, 1998

『シャルル・エティエンヌの人体解剖書』(一五四六)の紹介(1)(2)
(3). 科学医学資料研究 **303**: 1-16, **304**: 1-20, 1999, **305**: 1-16, 2000
1899 年刊『中枢神経系』の著者 ジュール・スーリイの生涯につ
いて (一) (二). 科学医学資料研究 **29**: 103-118, 119-133, 2001

■記録

ヨーロッパの脳研究施設を訪ねて(1)(2). 神経進歩 **2**: 613-624, **3**:
219-236, 1958

萬年 甫 (司会): ギャルサン教授を偲んで(1)(2). No To Shinkei
25: 226-236, 366-373, 1963

ゴルジ法発見から 100 年—黒い染色記念シンポジウム. 自然 2 月
号 1975

■エッセイなど

萬年 甫, 石井 毅: 神経組織化学アトラス 脂質・リポフスチン
および老人性細胞体内の顆粒. No To Shinkei **20**: 6-13, 1971

神経細胞の染色. 中外医薬 **24(5-6)**: 200-210, 1970

ゴルジ発見から 100 年—“黒い染色”記念シンポジウム. 自然 58-
67, 2 月号, 1974

ファールブルの庭にて. 神経内科 **6**: 1-3, 1977

太田正雄先生に学びて. 図書 **375**: 1-7, 11 月号, 1980

創刊 35 周年を顧みて 思いつくま. No To Shinkei **36**: 1053-
1054, 1984

失語症研究事始め. 音声言語医学 **22**: 15-21, 1981

小川鼎三先生を偲びて. 神経進歩 **28**: 372, 1978

脳地図への道. みずす **330**: 34-45, 7-8 月号, 1988

Jan Evangelista Purkyne. Clin Neurosci **7**: 1368-1369, 1989

William Richard Gowers. Clin Neurosci **7**: 450, 1989

Theodor Schwann. Clin Neurosci **11**: 1176-1177, 1993

Jules Bernard Luys. Clin Neurosci **14**: 114-115, 1996

日本の脳研究者たち II 小川鼎三, 1904-1984. Brain Medical **2**:
152-156, 1990

日本の脳研究者たち X IV 久留 勝, 1902-1970. Brain Medical **5**:
196-200, 1993

“中田瑞穂先生の思い出. 中田瑞穂先生を偲ぶ集い・生誕百年”で
の偲ぶ言葉. 新潟医学誌 **106**: 908-909, 1992

デイゴと図書館. 東邦大学医学メディアセンターニュース **338**: 1-5,
2001

■対談など

萬年 甫, 岩田 誠: このヒトに聞く 原点から学ぶ神経学. Brain
Nerve **61**: 93-101, 2009

丹羽真一, 萬年 甫, 都築正和, 島園 進, 朝田 隆: 〈座談会〉蘇る
日本のこころの支援. 精神医学 **3**: 833-843, 2011

■近日発刊予定書

滞欧日記. 三陸書房

神経細胞の形を求めて. 日仏医学

頭のなかをのぞく. 中山書店